

- 85 李賀 村上哲見 アジア歴史事典の項目 平凡社 一九六二年四月
- 86 中国文学史 中国科学院文学研究所中国文学史編写組 北京人民文学出版社 一九六二年七月 第九章第三節に李賀を論じる。
- 87 長歌統短歌ト李賀小記 原田憲雄 人文論叢（京都女子大学）七号 一九六二年十一月
- 88 中国文学史 游国恩等編 北京人民文学出版社 一九六三年一月 Ⅱ、第四編、第九章、第四節
- 89 金銅仙人辞漢歌ト李賀小記 原田憲雄 人文論叢 八号 一九六三年九月十五日
- 90 李賀詩注 中国文学名著第六集第七册 台北世界書局 一九六四年二月 65の三家評注李長吉歌詩に明の曾益注の李賀詩解四卷目錄一卷を加えたもの。
- 91 十二月祭辞ト李賀小記 原田憲雄 方向 一〇号 一九六四年七月
- 92 夢我集ト中国詩選 原田憲雄 方向社 一九六四年九月二十三日 油印本 李賀詩五三首、青錢のいと 三沢玲爾 大安 一〇一号 大安文化貿易KK 一九六四年四月
- 93 Li Ho - A Scholar-official of the Yuan-ho Period South M.T. JOSA. II-2 1964.
- 94 POEMS OF THE LATE T'ANG (Benjamin Classics) A.C. Greham Penguin Books Ltd. 1965.
- 95 幻視とは何か 竹内健 映縁芸術 一九六五年五月
- 96 李賀と清愁 倉病失意と詩人生活 陳穎 清華學報 一九六五年七月
- 97 垂翅の客ト 李長吉伝 草森紳一 現代詩手帖 一九六五年九月 これは一九七四年現在なお連載がつづいている。折々に小題がつけられているが、ここでは草森評伝と簡称したい。今のところ、日本青少年に李賀を鼓吹する功において、草森評伝は荒井健の李賀（本目錄66）と一、二を争う。わたしの李賀研究の発行部数が五十冊をこえたのは、たぶん両氏の功の余恵であろう。
- 99 草森評伝 一九六五年十月
- 100 同(三) 一九六五年十一月
- 101 同(四) 一九六六年一月
- 102 同(五) 一九六六年二月
- 103 収書遍歴(10) 長沢規矩也 大安 一九六六年二月

- 104 香魂（歌集） 岸田典子 喜望峰社 一九六六年三月一日 集中に「四季素辞」「鉄」など李賀詩に触発された作品群がある。吉井勇の短歌には数回李長吉の名が出てくるがそれは賀の個々の作品とはほとんど浸交渉だが、この蘭秀の作は、そこに泉を汲んでいる。
- 105 李賀評伝（六） 一九六六年三月
- 106 同（七） 一九六六年四月
- 107 同（八） 一九六六年五月
- 108 同（九） 一九六六年六月
- 109 同（一〇） 一九六六年七月
- 110 同（一一） 一九六六年八月
- 111 同（一二） 一九六六年九月
- 112 同（一三） 一九六六年十月
- 113 同（一四） 一九六六年十一月
- 114 楊柳——李賀小記—— 原田憲雄 人文論叢 一九六六年十二月
- 115 ナンセンズの練習 草森紳一 井上洋介漫画集『ナンセンズ展』所収 思潮社一九六六年のち
- 116 森——ナンセンズの練習—— 晶文社 一九七一年に採録
- 117 通俗の攻堅 草森紳一 現代詩手帖 一九六七年二月 『ナンセンズの練習』に採録
- 118 莫種樹——李賀小記—— 原田憲雄 方向 一三号 一九六七年三月一日
- 119 宣明時代の李賀 草森紳一 無限 一九六七年春季号
- 120 李賀（漢詩大系13） 斎藤明 集英社 一九六七年九月
- 121 斎藤先生の李長吉の訳注が出るという 石田幹之助 漢詩大系13月報
- 122 思い出 浅野晃 漢詩大系13月報
- 123 白玉楼中千五十年 原田憲雄 漢詩大系13月報
- 124 昌谷集秀野堂本 拾経楼題識 図書季刊 書目季刊二卷二号所載 一九六七年冬
- 馮小憐——李賀小記—— 原田憲雄 人文論叢 一五号 一九六七年十二月

- 125 負薪—李賀小記— 原田憲雄 人文論叢 一六号 一九六八年十二月十日
- 126 李賀詩引得 艾文博 中文研究資料中心研究資料叢書第4号 一九六九年一月 成文出版社
- 127 The Life and Thoughts of Li Ho (李賀の生涯と思想) 工藤直太郎 早稲田大学出版部 一九六九
- 128 年四月十八日 日本人の書いた英文の李賀評伝は、たぶんこれが最初だろう。
- 129 李長吉歌詩校釈 陳弘治 嘉新水泥公司文化基金會研究論文第一三二種 一九六九年八月
- 130 姚文燮昌谷詩註糾謬 葉慶炳 淡江學報 八号 一九六九年十一月
- 131 杜序—李賀小記— 原田憲雄 人文論叢 一七号 一九六九年十一月二十五日
- 132 草森評伝 II・1 現代詩手帖 一九七〇年一月
- 133 同 II・2 一九七〇年二月
- 134 同 II・3 一九七〇年三月
- 135 宝塔—岑参伝論— 原田憲雄 花園大学研究紀要 創刊号 一九七〇年三月三十一日
- 136 草森評伝 II・4 一九七〇年四月
- 137 同 II・5 一九七〇年五月
- 138 同 II・6 一九七〇年六月
- 139 愀公—李賀小記— 原田憲雄 人文論叢 一八号 一九七〇年六月
- 140 跋所謂金刊本李賀歌詩編 鄭寔 書目季刊 四卷四期 一九七〇年夏 (これについてはA雑誌・56
- 141 草森評伝 II・7 一九七〇年七月
- 142 同 II・8 一九七〇年八月
- 143 青琴(歌集)岸田典子 一九七〇年九月一日 白日社
- 144 草森評伝 II・9 一九七〇年九月
- 145 同 II・10 一九七〇年十月
- 146 同 II・11 一九七〇年十一月
- 李賀論 周誠真 文星叢刊二八一 香港・文藝書屋刊 一九七一年一月

- 147 李賀研究 創刊号 原田憲雄 一九七一年一月二十九日 『李賀研究』について 李賀集の諸本と注釈その他 李賀詩引得(舊評) 史雪汀注李長吉詩 李長吉 『李長吉』周辺
- 148 The Poems of Li Ho J.D. Frodsham Oxford University Press-Oxford Library of East Asian Literatures. 1970(?) 周誠真『李賀論』に記されているので知った。わたしは入手しなかったが、持っている人はちよいちよいいるようである。なお周氏によれば下記の諸書は李賀文献らしい。朱光潛『文藝心理学』香港、余光中『象牙塔到白玉樓』香港 Poems of Solitude, Anthology of Chinese Literature, The White Pony.
- 149 草森評伝 Ⅱ・12 一九七一年二月 雑誌ではⅡ・10とあるが誤植であらう。
- 150 同 Ⅱ・13 一九七一年三月(?)
- 151 李賀研究 二号 一九七一年三月六日 三長吉 『李長吉』周辺(二) 李長吉註海外紀 李賀評楚辭 阿婆 果下馬 沈繁瑛注富谷詩 評注赤箭壁 「柳毅伝」 「三長吉」付記 創刊号 第二号 正誤
- 152 草森評伝 Ⅱ・14 ?
- 153 同 Ⅱ・15 ?
- 154 李賀研究 三号 一九七一年五月六日 李神通(上) 『李長吉』周辺(三) 宮牙 大和 新唐書世系表 廻風舞 阿婆・統 李賀と三島由紀夫 阿婆・又統 唐人并声韻 索漠 刻削暴露 正誤
- 155 同 四号 一九七一年七月五日 和刻李長吉詩集 李神通(下) 『李長吉』周辺(四) 詩林広記 同好 狼疾 記過 過去のこと 莒光 永田調兵衛補遺 只鈎 正誤
- 156 毛沢東と李賀 草森紳一 朝日ジャーナル 一九七一年七月二十三日 『狼藉集』(一九七三・一・五)に収録。
- 157 草森評伝 Ⅱ・16 一九七一年八月
- 158 同 Ⅱ・17 一九七一年九月
- 159 李賀研究 五号 一九七一年九月十五日 唐の太宗 雜叢五系 踴躍 離歌繞情絃 稲田尹「李長吉の生涯」 永田調兵衛・補遺・統 官板李長吉歌詩の藍本など 雜記 16付記 唐太宗補遺 二〇

世紀の李賀（一）おわりとはじめ（吳汝倫）泉鏡花、伊良子清白、田北湖 正誤
老人になつた鬼才李賀 草森紳一 歴史読本 一九七一年一〇月 『狼藉集』に収録

草森評伝 II 18 一九七一年十月

同 II 19 一九七一年十一月

李賀研究 六号 一九七一年十一月二十七日 独吟聯句昌谷詩（一） 二〇世紀の李賀（二） 魯迅

中島子玉（一） 雜叢 四 書誌 眞勇子 二〇世紀の李賀（三） 魯迅付記 正誤

ナンセンスの練習 草森紳一 晶文社 一九七一年十一月三日

草森評伝 II 20 一九七二年一月

同 II 21 一九七二年二月（この月の二十五日に草森紳一『日本ナンセンス面走―恣意の暴逆―』

が刊行された。直桂李賀への言及がないのであげないが、一種の李賀文献といふべきかもしれぬ。

同 II 22 一九七二年四月

同 II 23 一九七二年五月

同 II 24 一九七二年七月

李賀研究 七号 一九七二年七月二十三日 古鄴城童子謠 走馬引 中島子玉（二） 二〇世紀の

李賀（三）久保天隨、斎藤明子、二、藝雪林、雜叢 三 系 李賀邊句 人情 迴風舞、続 小玉 曉蒼

蒼 衰枚「花爰裳」 己生須己養 元好問（上） クエン・タイ・ビン 范浚 鉏雨亭隨筆 骨勁神

秀 旅酒侵愁肺 固執せる流動 鄭板橋 正誤

李賀とその詩 川合康三 中国文学報 二三冊 一九七二年十月

金岡照光著『敦煌の文学』（書評） 入矢賢高 中国文学報二三冊

草森評伝 II 25 一九七二年十一月（草森紳一『悪食病誌底のない舟』昭文社 12月刊）

李賀詩集（カラー版中国の詩集6） 比留間一成訳 一九七二年十一月二十五日

草森評伝 II 26 一九七三年三月

同 II 27 一九七三年四月 四月以後も連載が断続しつつ進行していることを広告などで知るの

だが、本屋に行ったときには売り切れ、あるときには草森評伝のない号である、といった調子で入手

できない。

175 楚辞与楞伽——李贽論—— 楊鍾基 博士課程研究論文要旨昭和四十七年度 京都大学大学院文学研究

科 一九七三年

177 李贽研究 八号 一九七三年八月二十五日 独吟聯句昌谷詩(二) 銅鼓 「金刊本」 陸游の李

賀評 読曲歌 清朝の遷老 卷明君 幡雪帆 春酒堂 史雪汀注李長吉詩統 孟郊・韋莊 字号 高

軒過・白玉樓 二十世紀の李贽(四) 王礼錫 中島子玉(三) 雑誌 李贽文獻目録稿(一)

景愛小林太市郎博士書簡抄 芸術の理解のために 正誤

173 狼藉集 草森紳一 一九七三年十二月五日

179 杜牧(中国詩文選・18) 荒井健 筑摩書房 一九七四年一月二十五日

180 李贽研究 九号 一九七四年三月 独吟聯句昌谷詩(三) 世尊と夜叉王——楞伽經雜記—— 菩提流

支运と李贽小伝 楞伽經メモ 正誤 後記

181 李贽『蔡王飲酒』をめぐって——李長吉体と杜詩—— 森瀬寿三 入天教授小川教授退休記念論文集

一九七四年十月

後記 1974.12.15.

八月十三日 上原淳道氏から金千五百円也の寄付をいただいた。そのほか、多くの方から雑誌、図書

をいただいている。あつく感謝する。

李贽文獻目録は遺漏が多いことである。お気づきの方は、どうか高教を。

十二月十八日 The Poems of Li Ho (J.D. Frodsham) 1970 を入手した。その Bibliography に、わた

しのほじめて知る資料がいくつかあげられている。それらはあるいは日本のどこかの研究所に求めている

のかもしれず、目録類にあがっているのかもしれないが、気がつかなかった。ゆっくり読んだうえでま

だ紹介したい。後生おそろるべし、ということばを近ごろことに実感し、それが日々の楽しみである。

一〇〇ページを目標としたが、六〇ページで本号を閉じざるを得ない。読者各位の寛恕を乞う。